



第76回 愛知県総合バドミントン選手権大会

令和6年6月2日(中村SC)を初日に4日間を費やして開催し、それぞれの種目決勝は、混合ダブルス16日(緑SC)、男女シングルス29日(守山SC)、男女ダブルス7月7日(千種SC)に行われた。

●男女シングルス

準々決勝からの対戦は、男女各8試合のうち半数の4試合がそれぞれファイナルゲームになる接戦であった。

女子決勝は、準々決勝、準決勝とストレートで勝ち上がった木林千耀選手(東海興業)と、準決勝でファイナルゲームの接戦を勝ち切った蘭沙也可選手(豊田通商)との対戦であった。これもまたファイナルゲームにもつれる試合となったが、木林選手が最後まで足を止めることなくコートを動き回り栄冠を手にした。

「久しぶりの優勝で率直にうれしい。東海総合では今日よりも自分のレベルを上げ良い試合をしたいと思う」と決意を新たにしていた。



女子シングルス優勝 木林千耀選手



男子シングルス優勝 池端元哉選手

男子決勝は、ともにストレートで勝ち上がった池端元哉選手(豊田通商)と村本竜馬選手(ジェイテクト)との対戦となり、お互いに積極的な攻めの姿勢を最後まで続けたが、池端選手が粘ってファイナルゲームを制し、優勝を勝ち取った。

「社会人として初めてタイトルを獲得し、たくさんの応援に感謝の気持ちでいっぱい。東海総合は、接戦になるので一戦一戦精一杯力を尽くしたい」と抱負を語った。

(広報委員 宮原裕信)

●混合ダブルス

豊田通商がベスト8に6ペア、さらにベスト4はすべてを独占する活躍を見せた。決勝は、滝口友士・植村理央ペア対神山新伍・鈴木ゆうきペアの対戦となった。1ゲーム目は、第1シードから順当に勝ち進んだ滝口・植村ペアが安定したプレーでゲームを有利に進める。その後一進一退のスコアが続いたが、中盤に入り神山・鈴木ペアのミスが続き21-13で1ゲーム目を取る。

2ゲーム目序盤では滝口のダイビングレシーブもわずかに届かず、神山・鈴木ペアがリード。中盤から終盤はお互い素晴らしいレシーブの応酬で、交互に1点ずつを取り合う見ごたえのあるシーソーゲームとなった。最後は相手のサービスミスからマッチポイントを握った滝口・植村ペアが勝利を引き寄せた。

滝口友士選手は「この優勝で満足せず、東海総合に向けてしっかり準備していく」と次を見据え、植村理央選手は「決勝まで手の内を知り尽くした同じチームとしか当たっていないので、やりにくい試合が続いた。でも最後は勝ち切った、という感覚」と充実感にあふれていた。



混合ダブルス優勝
(左)滝口友士選手(右)植村理央選手

(広報副委員長 鈴木勝男)

男女ダブルス

男子は大滝選手・江藤選手(東海興業)が栄冠に輝きました。本人たちが「ヤマ場だった」と振り返る準決勝は、シングルスを得意とする北里選手・池端選手(豊田通商)の速く柔らかなタッチで左右に振る球回しに苦しめられ、1ゲームを落としましたが、ドライブを増やしセンターヘスマッシュを打ち抜く展開で崩し、ダブルスを中心に戦っている意地を見せ、競り合いの末に残り2ゲームを取り返し、決勝に進出しました。

決勝の相手は、本田選手・曾根選手(大同特殊鋼)。1ゲーム目をドライブ中心の展開で先取します。しかし「脚が止まった(大滝選手)」2ゲーム目は序盤から大同ペアの強打に押され大きくリードを許し、終盤の追い上げも届きませんでした。

ファイナルゲームは「思い切りよくやる(大滝選手)」と気合を入れ、速い動きと攻撃的な展開を増やし、序盤の大量リードに繋げました。最後は疲れが見えながらも「(大滝選手に)最後までひっばってもらった」と江藤選手が言うように、勢いを緩めず勝ちきりました。

優勝が決まった瞬間、ふたりの喜びの声が会場内に響き渡りました。江藤選手は「一試合ずつその試合に勝つことだけを考えて戦った」と初めての優勝の勝因を率直に語りました。

女子は激闘の一日を制した鈴木選手・植村選手(豊田通商)が優勝を果たしました。初戦からどの試合も力が拮抗し、前衛からの攻撃も簡単に決めさせず、後ろに送られても素早く回り込んで組み立て直し、ラリーを続ける。体力が削られる長い試合ばかりでした。

決勝は、関谷選手・吉川選手(東海興業)との対戦。1ゲーム目は鈴木選手・植村選手が堅い守りで相手の強打をしのぎ、相手を前後に振り着実に加点をし、先取しました。



女子ダブルス優勝
(左)植村理央選手(右)鈴木ゆうき選手

2ゲーム目に入り、東海興業ペアが反撃。豊富な運動量で球を拾い、クロスカットやクロスレシーブでゆさぶります。攻め切るラリーが増えていった東海興業ペアがゲームを取り返します。

ファイナルゲームになっても、長いラリーが続きました。その中で、植村選手・鈴木選手の相手の足を止める球足の短いショットが効果的に決まり、リードをして11点を取りました。折り返しの最初の1本は互いに譲らず、長いラリー。これを制した、植村選手・鈴木選手がローテーションのスピードを落とすことなく、攻め続け勝負がつきました。

植村選手は「すべての試合で1ゲームを先取しながら、フルゲームに持ち込まれてしまった。東海総合では、ストレートに勝ち切れる展開にしたい」と、次のステップに向けての抱負を語りました。

(広報委員 中村圭吾)



男子ダブルス優勝
(左)大滝聖矢選手(右)江藤佑太選手

西三河のバドミントン専門店

モリタスポーツ

豊田市山之手3丁目100番地
☎ <0565> 29-0055

勝つための本物

GOSEN®

www.gosen.jp

株式会社ゴーセン 大阪本社/TEL.06-7175-7116 FAX.06-6201-0741



JOCジュニアオリンピックカップ新人の部愛知県予選

9月に岩手県で行われる全国大会への出場権をかけた、見出しの大会が7月7日に千種スポーツセンターで行われた。小5から中2までの上位選手による学年の枠を超えて争われる大会である。上の学年の選手は下には負けられないと、下の学年の選手は下剋上を起こそうと必死でシャトルを追いかける姿が印象的であった。

男子は28名が参加した。結果は、最高学年である中2が上級生の貫録を見せ、ベスト4は全て中2で占めた。決勝は第1シードを破って上がってきた第4シード市邨の清水と、第2シードから上がってきた同じく市邨の伊藤の同校対決となった。勝手を知る相手だけになかなかお互いにリードを広げることができず、ストレートではあるが23-21、25-23の接戦を伊藤が勝ち取った。

女子はベスト4にはりーあぶで練習する小6、中1、中2が各1名ずつ、市邨の中2が1名勝ち残り、準決勝はこの大会ならではの面白い組み合わせとなった。優勝こそ第1シード滝の水中の蔡が順当であったが、特筆すべきは最年少の小6松本が中学生を次々に打ち破って決勝に駒を進め、全国大会への切符を勝ち取ったことである。上級生たちのパワーのあるショットをしっかりと拾い、そこからラリーに持っていく技術の高さと粘り強さが、上級生にとっては脅威であっただろう。

全国大会出場を決めた男女それぞれ2名の選手たちの活躍を期待したい。

(広報委員 大村悠介)

	男子	女子
1位	伊藤優斗(名経大市邨中)	蔡せん(滝の水中)
2位	清水碧(名経大市邨中)	松本紗奈(はりーあぶジュニア)

インターハイ

7月30日～ 8月4日 佐賀県佐賀市においてインターハイが開催されました。

男女で学校対抗戦に出場した名経大市邨高。男子は2回戦2-3で兵庫県の彩星工科高に惜敗。女子は2回戦まで3-0で順当に勝ち上がるも3回戦0-3で青森山田高に敗退しました。

個人戦においては女子単に出場した伊藤菜央加(名経大市邨高2年)が第1シードを下す金星をあげ、5位入賞を果たしました。また、男子複においても中村・檜尾(名経大市邨高2年ペア)が接戦を制して9位入賞を果たしました。男女とも2年生の活躍が光り、今後の更なる活躍が期待されます。



伊藤菜央加選手(名経大市邨高2年)

全国中学校大会

8月21日～ 8月24日 福井県勝山市において全国中学校大会が開催されました。

男子団体戦に出場した名経大市邨中。初戦から淑徳巣鴨中(東京都)、木太中(香川県)に競り勝ち5位入賞を果たしました。

個人戦女子単において大串恋々奈(名経大市邨中2年)が第3シード選手に競り勝ち9位入賞を果たしました。男子単に出場した伊藤大地(高蔵寺中3年)山本翔大(名経大市邨中3年)山本権利(名経大市邨中3年)の3選手も実力を存分に発揮し、大接戦の好試合を演じました。



名経大市邨中

インターハイ・全国中学校大会ともに3位入賞には至らなかったものの、愛知県勢の存在を大いに示した大会でありました。

応援ありがとうございました。今後ともよろしくお願ひいたします。

(名古屋経済大学市邨高等学校 バドミントン部顧問 稲垣翔悟)

理事長通信

愛知県バドミントン協会
理事長 井上 龍



今夏、開催されたパリオリンピックが終幕し、バドミントン競技は代表選手それぞれが健闘、銅メダル2個を獲得しました。地元ジュエテクト所属の西本拳太選手は惜しくも入賞(8位以内)を逃しましたが、決勝トーナメントに進出し熱い熱い戦いを見せてくれました。

さて、愛知県は将来の日本代表を目指しジュニアの育成に力を入れています。

全国大会で常に上位の成績を収めている小学生連盟の強化活動がベースとなり、競技実績のある中学、高校の有力選手を選抜し、今年度より技術、フィジカル両面での強化活動を始めました。何年後かにこの取り組みが実を結び、成果につながることを期待しています。

また、8月16日に第2回バドミントンAICHIフェスタを大府で開催し、バドミントンに興味関心がある方への無料体験会、およびS/Jリーガーによるバドミントン教室を実施しました。NTT東日本バドミントンチームを招聘し、愛知県出身の篠谷選手以下4名の指導によるものです。終了後、サイン会を実施するなど参加者の皆さんに喜んでもらえたと思います。

今後も協会は強い愛知を目指すとともに、皆さんにとって有意義なイベントを提供していきたいと考えています。

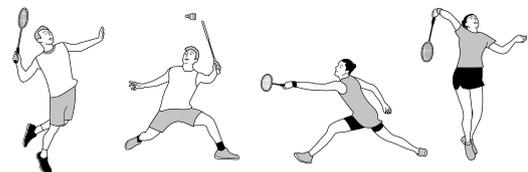
審判連載 ルールブック講座



第12回 「プレーの継続、不品行な振舞い、罰則③」

池上 信之

公認審判員規程12項にコーチが守るべき規程がいくつかあります。コーチとは、監督、コーチ、その他大会参加者(チームのその他のプレーヤー)など、マッチ中に、コート競技区域内にあるコーチ席に座る可能性のあるものを指します。①コーチは許可されたインターバル(競技規則第16条第2項)の間を除き、マッチ中、指定された場所に着席するものとし、コートのそばに立ってはいけません。もし、コーチがほかのコートに移動したければ、必ずシャトルがインプレーでない時にすること。②コーチが、プレーヤーの注意を逸らしたり、プレーを混乱させるようなことがあってはならない。①②のようなことがあれば、そのプレーは「レット」とコールする。そして、混乱させる行為が継続される場合にはレフェリーを呼び判断を仰ぐこととなります。③コートサイドで、コーチはマッチ中、電子通信機器(携帯電話、スマートフォン、タブレット端末等)を使用してはならない。スマートウォッチは通信機能を使うものでなければ問題ありません。④コーチは、コートサイドでマッチにふさわしい服装で臨むこと。例えば、チームユニフォーム、シャツ、ポロシャツ、ブラウス、長ズボン、またはスカートとし、ジーンズやビーチサンダル、ショーツ、スリッパ、サンダルは禁止とする。その適否は大会レフェリーに委ねるものとする。長ズボンには「7分丈パンツ」は含まれません。7分丈パンツではコーチ席に入れませんので、注意してください。



第145回 秋季愛知県新人バドミントン大会

MS

2日に分けての開催だったので、(体力的に)良いパフォーマンスで試合ができた。今後いろいろな大会にでて結果を残したい。



男子シングルス優勝
伊崎裕一郎選手(プラザー工業)

MD

(福井) 中学時代にペアを組んでいて、楽しく試合をし、しかも優勝できてうれしい。
(小嶋) 中学時代から出続けたこの大会で優勝できてうれしい。連盟のリーグ戦に向けて頑張っていく。



男子ダブルス優勝
福井優志選手(IWATAB.C)・小嶋大和選手(有心館)

WS

目標どおり優勝できてうれしい。普段はフットワークを主眼においたノックを中心に練習している。秋にある新人戦で、BEST8に入賞して、東海ジュニアOPに出場できるように頑張ります。



女子シングルス優勝
本橋歩奈選手(岩成台中)

WD

(田中) 初めて組んだペアだったけれど、優勝できてすごくうれしかった。
(新美) 県大会でもいい成績が残せるように1勝でも多く勝ちたい。



女子ダブルス優勝
新美和奏選手・田中杏奈選手(Winwin)

お知らせ

◆愛知勢活躍!

JOCジュニアオリンピックカップ 第43回全日本ジュニアバドミントン選手権大会が、9月23日岩手県で開催され、ジュニア新人の部女子シングルスで名経大市邨中の高田万智選手が見事3位入賞を果たしました。河村珠莉奈選手(大里東Jr)と大串恋々奈選手(名経大市邨中)はベスト8。

また、男子シングルスで伊藤優斗選手(名経大市邨中)がベスト8、清水碧選手(名経大市邨中)がベスト16に入りました。



左から清水選手、伊藤選手、高田選手、大串選手

大府

JR 大府駅西口徒歩 8 分

はいーあっぷ

代表 中口直人

TEL(0562)44-5529 FAX(0562)44-5594

バドミントンプロショップ
リーダーズ グループ

SINCE1979

(有)リーダーズ

代表取締役 菱田修光

TEL・FAX(052)703-2767

名古屋一社

地下鉄一社南出口より徒歩 2 分

★愛知のホープ★

わたなべふうが
渡邊楓雅(名古屋経済大学市邨高等学校1年生)



瀬戸市出身で小学1年生の頃にバドミントンを始めました。バドミントンが大好きで、誰よりも強くなりたいという意識の高い選手です。中学2年のJOCジュニア新人の部で、ジュニア日本代表である山城選手(ふたば未来中学校)をファイナルゲームの接戦に追い込み、破れはしたもののベスト16という成績を残しました。しかし、中学3年の最後の全国中学校大会では、思うような成績を残すことができず、悔しい思いをしたまま高校に入学。更なる高みを目指し、日々厳しい練習を積み重ね、技術面では全国レベルで戦える力を習得しました。今年度の愛知県高等学校総合体育大会では1年生ながら個人戦シングルスで優勝し、インターハイへ出場しましたが、3回戦で敗退。課題の残る試合でしたが、高校生という新しいカテゴリー一枠になり、上には上がいることを痛感したのは良い経験になりました。

今の実力では勝ち上がることの難しさを自覚し、全国レベルで戦うには、人間力の向上とフィジカル面の強化が必要と考え、日々の練習で努力を続けています。パワーとスピードが強化されることで持ち前の技術面が活かされ、愛知県の代表として活躍する選手に成長してくれることを期待しています。

応援よろしくお願い致します。

(名古屋経済大学市邨高等学校 バドミントン部顧問 菅野俊助)

フットワーク

この欄は、連載のコーナーとして県内各チームの紹介やその他の記事を皆さんに続けてお届けしています。

今回は

豊橋ジュニア

を紹介します。

「明るく楽しく元気よく」をモットーに、若あゆスポーツ少年団と合わせて中学生10人、小学生27人、園児2人の賑やかなチームです。週に5回活動していて、指導は全て、選手の親がやります。7人以上がバドミントン経験者で、それぞれ皆個性がすごいので、曜日によって全然雰囲気違います。(笑)



初心者が多いですが、厳しい指導のもと、みるみる力を付けてき

ました。元気いっぱいのやる気のある選手たちをキャプテンがよく纏めて引っ張っていて、全国大会出場を目指し最近は土日1日練習を始めました。

練習終了後にはフリーの練習時間があり、親子でシャトルを打ち合います。親子交流がとても多いので、どうしても甘い所もありますが、時には厳しく(?)和気あいあいと楽しく、みんなで仲良く頑張っています。

(豊橋ジュニア コーチ 市川新子)

連盟NEWS

小学生バドミントン連盟

第42回全国小学生バドミントン選手権大会個人戦県予選の単の部を6月15日に行いました。480人を超える選手が出場。準決勝以上の試合は8月25日の複の部と同日開催となり、2か月もブランクがありましたが、選手はみんな元気よく、自分が優勝するんだという意気込みにあふれ、素晴らしい試合を展開しました。

複の部でも400人を超える選手が出場。しっかりとダブルスの動きをマスターし、どのペアが優勝してもおかしくない頼もしい試合ばかりでした。

入賞した選手たちは10月13日に三重県で行われる、第36回東海小学生バドミントン大会個人戦に出場します。全国大会出場を目指して頑張り!

種目	優勝	準優勝	3位	
4年以下男子ダブルス	市川晃二郎 中西陽希 (はり-あつジュニア)	亀山大輝 三島理空 (師勝ジュニア)	飯田凜 平野永仁 (TOYOKAWA Jr. B. C)	森幹太 張 鼎承 (師勝ジュニア)
5年男子ダブルス	青山久都 斎木權成 (はり-あつジュニア)	松竹湊 岡本雄星 (Unibirds岡崎)	藤井惇 鈴木春登 (ハシルトン)	平野仁太 田中歩輝 (TOYOKAWA Jr. B. C)
6年男子ダブルス	山内智陽 井村柗陽 (大里東ジュニア)	田中煌真 白居煌季 (TOYOKAWA Jr. B. C)	尾崎郁仁 曾我颯斗 (Unibirds岡崎)	深田透蒼 三宅創馬 (ウイスタリアジュニア)
4年以下女子ダブルス	服部紗和 齋藤日向 (Unibirds岡崎)	西崎都花 古川沙羅 (ハシルトン)	大島寧々 蔡 琳 (はり-あつジュニア)	宮崎結鈴 甲田小晴 (師勝ジュニア)
5年女子ダブルス	平田花子 田中倫奈 (Winwin)	花堂希衣 三ツ石心花 (はり-あつジュニア)	高橋美里 早川花凜 (T-Jump Jr.)	森下美子 山田結桜 (師勝ジュニア)
6年女子ダブルス	加藤よつ葉 峰めりあ (T-Jump Jr.)	福田怜 磯田真凜 (T-Jump Jr.)	木下伊織 高日愛佳 (長久手ジュニア)	野間一花 清水若菜 (西尾ジュニア)
4年以下男子シングルス	松下裕瑛 (たんぼぼB. C)	河村宣親 (大里東ジュニア)	竹内澄海 (はり-あつジュニア)	柘植建人 (ハシルトン)
5年男子シングルス	伊藤稜平 (師勝ジュニア)	長神旺征 (豊橋ジュニア)	村井晴飛 (西尾ジュニア)	松下幸太郎 (はり-あつジュニア)
6年男子シングルス	服部恵大 (Unibirds岡崎)	山田世吏 (西尾ジュニア)	柴田稜雲 (師勝ジュニア)	加藤僚介 (TOYOKAWA Jr. B. C)
4年以下女子シングルス	宮下蒼夏 (SGUジュニア)	田中花和 (NOCK)	牧田つばめ (はり-あつジュニア)	三好優菜 (はり-あつジュニア)
5年女子シングルス	長尾袖希 (はり-あつジュニア)	内田実咲 (ハシルトン)	神谷美香 (ウイスタリアジュニア)	大矢梨珠 (石ヶ瀬アボ少)
6年女子シングルス	松本紗奈 (はり-あつジュニア)	牧田みなみ (はり-あつジュニア)	松井理紗 (大里東ジュニア)	市川葵 (はり-あつジュニア)

市町村だより

一宮市民夏季バドミントン大会

7月28日一宮市総合体育館にて開催されました。参加者数275ペア。

連日猛暑が続くので、今大会も空調を活用しました。経験豊富な社会人相手に互角に戦う高校生の活躍が目立ちました。

男子2部優勝者は「次は1部で勝てるように頑張っていきたい」と楽しそうに話し、女子2部優勝者は「粘り強さを生かしました」とコメントしました。

種目	優勝	準優勝	3位	
男子1部	源口哲史 近藤峻矢	丹羽悠花 末松功大	角田英之 田中康樹	安藤豪 毛利貴彰
男子2部	三木悠汰 杉村真弥	渡辺修平 加藤洋祐	高井伸幸 千葉俊輔	安田智詞 六ツ名孝也
男子3部Aゾーン	稲垣拓希 堀江海幸	水野弘大 萬玉駿介	小高貴斗 細田大登	河合英和 土屋真
男子3部Bゾーン	浅野光弘 内木かおり	横井力 川崎貴史	加藤柗大 竹澤暢人	足立康弘 後藤広年
男子3部Cゾーン	松浦稜 大家智貴	芳山友亮 宇野耕也	神田悠稀 猪口双太	田畠祐規 門傳信二
男子初心者	増子喜治 増子琥太郎	江口翔音 武馬翔一	大澤柗哉 中村陸翔	信原司 三輪こずえ
男子シニアA	古田圭三 角藤利明	生田純也 長瀬寿一	田中均 大城栄	吉川功次郎 遠藤博史
男子シニアB	杉山誓英 廣田一	原隆文 高橋泰幸	大里芳宏 武藤弘敏	

種目	優勝	準優勝	3位	
女子1部	浅井風音 田口佳奈	角田温子 海津香帆	安藤七海 大場優芽	伊藤美咲 岡本葵
女子2部	柴田依諾 草野佑季	滝澤里菜 坪井彩佳	亀山沙織 大塚由季	森智美 長瀬有加
女子3部Aゾーン	中嶋洋子 沢田裕子	久松瑛恋 藤澤智子	佐竹映子 前田真紀	佐藤夢羽 渡辺空來
女子3部Bゾーン	名川鈴華 佐藤由衣	肥田菜摘 肥田みゆき	浅井里枝 中初江	因幡雛乃 藤村果音
女子初心者Aゾーン	星野恵子 松村洋子	横井さゆり 澤田美和	坂井田美佳 原久子	今井結菜 小野部麟
女子初心者Bゾーン	三木里美 小島好恵	安井敬子 浪岡幸香	中島瑞希 浅田留奈	寛香織 磯村奈苗
女子シニアA	伊藤智美 澤木美恵子	鈴木須光代 関山陽子	今枝理恵 細田里美	
女子シニアB	松永周子 小池由紀子	松原真弓 風見栄里子	杉山靖子 三島喜代美	山岡嘉奈子 川尻禮子

第2回 バドミントンAICHIフェスタ2024 in大府

県内のバドミントン競技者やコーチの質の向上、そしてバドミントンの魅力を伝え普及させていくことを目的に、昨年度に引き続き8月16日にメディアスおおぶ体育館で開催された。今年度の招聘は男女ともにS/Jリーグで活躍するNTT東日本チーム。監督の川前直樹さん、男子では仁平澄也選手、古賀穂選手、女子では上杉杏選手、そして地元大府市はりーあっぷジュニア出身の篠谷菜留選手の5名である。関東からなので、台風7号による交通機関への影響も心配され、開催さえも懸念されたが、楽しみにしている愛知の選手たちのためにと、遠路はるばる車での来訪であった。

県内の小・中・高生のジュニア選手またその保護者、指導者らたくさんの参加者があった。まずは監督・選手の紹介や挨拶があり、次に監督・選手がそれぞれの動きの目的をわかりやすく説明しながら、全員で動的ストレッチやトレーニングを行った。その後、様々な実践的なノック、パターン練習を行った。NTT東日本チームの選手に手本を見せてもらうと、そのショットの正確さ、フットワークのスムーズさなど技術の高さに参加者は驚きの表情を隠せなかった。自分たちの番になるとそれを少しでも自分のものになろうとアドバイスを受けながら真摯に取り組んでいた。

午後は、ミニゲーム形式での練習だ。10面を使用できたので、当然ジュニア選手同士でもやることになるが、やはりNTT東日本チームの選手と対戦できるコートは長蛇の列であった。明るく声掛けをされながらの対戦は、ジュニア選手たちが1本でも長くそれぞれのラリーを続けようと、必死でシャトルを追いかける姿が印象的であった。コート練習の最後には、県内ジュニアのトップ選手がNTT東日本チームの選手に挑むチャレンジマッチが行われた。シングルスでは上杉杏選手に岡崎城西高校の馬場選手、そして古賀選手に大里東の河村選手。それぞれコートを広く使った厳しい球回しの中で放たれる鋭いショットにレベルの高さを感じた。ダブルスでは仁平選手・篠谷選手のミックスダブルスに名経大市邨中学の3年生熊谷・宮崎組が挑み、ラリー力の高さを見ることができた。それぞれの選手たちは試合後アドバイスをもらい充実した表情であった。

最後にNTT東日本チームの選手たちへの質問タイムが持たれた。ジュニア選手たちからは技術に関する質問はもとより、試合に入る前、入った後におけるメンタルの保ち方、ルーティーン、食事など多岐にわたる質問が飛び交った。このように大盛況のうちに幕を閉じた。

またこの企画と並行して、バドミントン未経験の子供たちを対象とした体験会も実施した。参加した子供たちは楽しそうにシャトルを追いかけまわしていたが、参加人数が少なかったのも、より周知させる必要があると感じた。

さらに、同時に地元大府市消防局の協力を得てAED講習会も実施された。直前にジュニアの海外選手が試合中に命を落とすという痛ましい出来事もあったばかりなので、参加者たちは真剣な表情で講習、実習を行っていた。

(広報委員 大村悠介)

連絡
投稿

〒453-0851
名古屋市東区中村区畑江通6-14
広報委員長 浅井 淳(あさい じゅん)

公式サイトアドレス
<https://www.badminton-aichi.com/>
Eメールアドレス
info@badminton-aichi.com



スポーツごころを世界に。



編集後記



今夏のパリ2024では女子ダブルスで志田・松山ペアが、混合ダブルスでは渡辺・東野ペアが共に銅メダルを獲得しました。深夜眠い目をこすって観戦していました。すべての競技において選手の皆さんの活躍に心打たれました…感動をありがとう!!

さて、先日人工シャトルを初めて打ってみました。ラケットの進化は各社目覚ましいですが、従来のナイロン製シャトルは打球感が今一つのような気がしていました。この人工シャトルは飛翔性能も天然シャトルに近いので打ちやすく、耐久性の向上もあり、さらに日本バドミントン協会検定合格球(合成球)にも認定されているそうです。

今後人工シャトルが普及していくと、環境面での配慮もでき、バドミントン競技がより良いものになりそうです。

(広報副委員長 鈴木勝男)